

# お手入れのしかた

## ピカピカのトイレで、イメージアップ

便器や便座をピカピカにしておくと、それだけで印象がワンランクアップします。掃除効果も高まります。

## お掃除をラクにするコツ

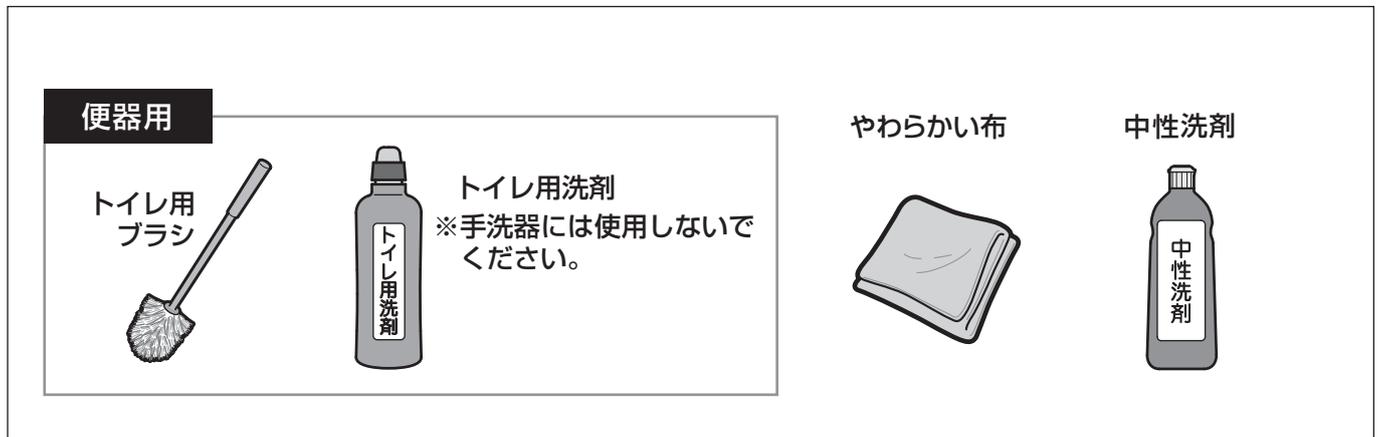
便器や便座の汚れ、結露や床にこぼれた小水などは、気が付いたらサッとふき取る習慣をつけましょう。家族の協力も得て、気づいた人がその場でお掃除をすることがポイントです。

## お手入れの前に

お掃除方法も間違えると商品を傷つけてしまいます。下記の道具・洗剤は使用しないでください。

<b>材質：木質</b> キャビネット・カウンター	<b>材質：樹脂</b> 配管カバー・トラップカバー・バックパネル・紙巻器（樹脂製）・クリスタル手洗器
シンナー、ベンジン、酸性洗剤、アルカリ性洗剤（塩素系含む）、研磨材入りの洗剤、住宅用洗剤  金属ブラシ・金属たわし（スチールウール）、紙やすり、研磨材付きナイロンたわし、ナイロンたわし、たわし、メラミンスポンジ、乾いた布、トイレットペーパー	シンナー、ベンジン、酸性洗剤、アルカリ性洗剤（塩素系含む）、研磨材入りの洗剤、トイレ用洗剤、住宅用洗剤  金属ブラシ・金属たわし（スチールウール）、紙やすり、研磨材付きナイロンたわし、ナイロンたわし、たわし、メラミンスポンジ、乾いた布、トイレットペーパー
<b>材質：陶器</b> 手洗器	<b>材質：金属</b> 水栓・止水栓・メタル製紙巻器
酸性洗剤、アルカリ性洗剤（塩素系含む）、研磨材入りの洗剤  金属ブラシ・金属たわし（スチールウール）、紙やすり、研磨材付きナイロンたわし	シンナー、ベンジン、酸性洗剤、アルカリ性洗剤（塩素系含む）、研磨材入りの洗剤  金属ブラシ・金属たわし（スチールウール）、紙やすり、研磨材付きナイロンたわし、ナイロンたわし、たわし

## ◎ 日常のお手入れならこの道具



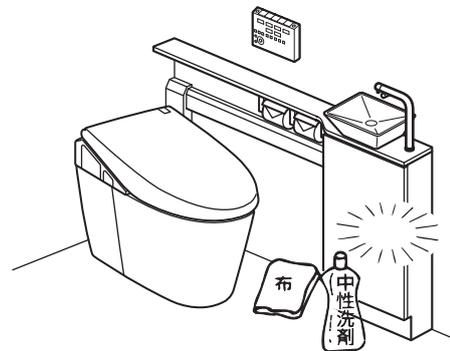
手洗器・配管カバー・バックパネル  
キャビネット・カウンター（カウンタータイプ）  
トラップカバー（コーナータイプ）

1

柔らかい布かスポンジにうすめた  
中性洗剤をつけてふいてください。

2

その後もう一度水ぶきしてから、  
乾いた布で水分をきれいにふき取ってください。





# 水栓

## 布を使用したお手入れ

### 軽い汚れの場合

水またはぬるま湯に浸した柔らかい布をよく絞って、汚れをふき取ってください。

### ひどい汚れの場合

適量にうすめた中性洗剤を含ませた柔らかい布で汚れをふき取ったあと、水ぶきしてください。

## TOTO「蛇口まわりのクリーナー」でのお手入れ

水栓の表面に付着した水あかなどの汚れ落としには、水栓に傷をつけずに汚れを効果的に除去できるTOTO「蛇口まわりのクリーナー」のご使用をお勧めします。

お求めはお近くのTOTOショールームもしくはTOTOメンテナンス(株) TOTOパーツセンター（電話番号は裏表紙を参照ください）にお尋ねください。

品番：THYZ3      容量：200ml

※仕様・品番は改定する場合がありますのでご了承ください。



## 目皿・排水口まわり

ネオレストハイブリッドシリーズ  
Sサイズ(角形)・Mサイズ手洗器には、目皿があります。

- ① 目皿をつかみ、上に引き抜きます。  
※固い場合は、強く引っ張ってください。
- ② 目皿のゴミをブラシなどで取り除きます。
- ③ 目皿・排水口まわりをやわらかい布でふきとります。

汚れ(カビ・水アカなど)がいったん付着すると、落としにくいいため、日頃からこまめにお手入れしてください。

- ④ 掃除が終わったら目皿をもとに戻し、上からしっかりと押さえつけます。  
※目皿を落として手洗器を傷つけないよう、ご注意ください。





# 手洗器用排水トラップ

## 「排水パイプ用洗剤」でのお手入れ

### 手洗器の水はけが悪くなった場合

市販の弱アルカリ性「排水パイプ用洗剤」（粉末タイプなど）を使用し、排水トラップを洗浄してください。



### ⚠ 注意



禁止

アルカリ性の排水パイプ用洗剤（液体タイプなど）は、排水管を傷めることがありますので、使用しない。手洗器配水管を痛め、水漏れして家財などをぬらす財産損害発生の原因となります。



# 電源プラグ（自動水栓・電気温水器・ウォシュレット）

①

電源プラグを抜きます。

②

掃除をします。

- 電源プラグの刃などについたほこりをかわいた布で取り除いてください。

③

電源プラグを差し込みます。

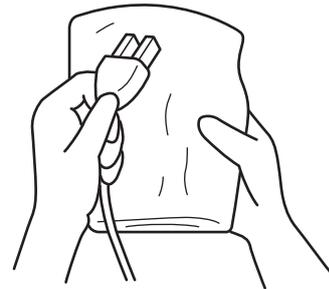
- 根元まで確実に差し込んでください。

### ⚠ 警告



必ず守る

コンセント・電源プラグに付いたほこりなどは取り除き、根元まで確実に差し込む火災や感電の原因となります。



# 冬場の凍結を防ぐには

凍結が予想される時

- ◎ 商品が凍結すると、機器が破損し水漏れの原因となります。
- ◎ 凍結による破損は、保証期間内でも有料修理となります。
- ◎ 周囲の温度が氷点下にならないように、トイレ内をあたためるか、凍結予防を行ってください。
- ◎ 凍結のおそれがある場合は、次の手順に従い予防してください。

## 手洗器部

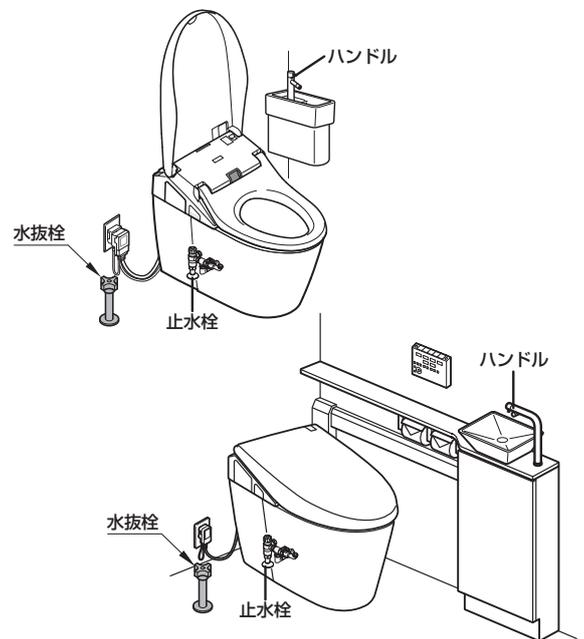
### 流動方式（水を流し続ける方法）

- ① ハンドル式水栓のハンドルを開いて、少量の水を流し続けます。  
やめる場合は、ハンドルを閉じます。

### 水抜き方式（水を抜く方法）

#### 給水ホース（コーナータイプ/カウンタータイプ共通）

- ① 水抜き栓を操作し、給水を止めます。  
※止水栓は開けたままにしておいてください。  
※水抜き栓の操作方法は、水抜き栓の取扱説明書をご参照ください。
- ② 手洗器の水栓のハンドルを開けます。
- ③ 水を抜き終わったら、水栓のハンドルを閉めます。



※長期間使用されないとき

水抜き後、手洗器排水口から不凍液を入れるなどして凍結しないようにしてください。不凍液はそのまま流さないでください。環境汚染などのおそれがあります。手洗器ご使用前には、不凍液を回収し廃棄処理をしてください。